神奈川県権令　大江　卓殿

(三)

第三区七番組武州橘樹郡太尾村外弐ケ村元役人一同奉申上候今般区画御改正之上者当組正副戸長を以組内之事務一般ニ取扱村費減少之御旨趣尤元戸長副之義者先従前之通可相心得旨被仰達候得共当今多人数有之候而者臨時入費相嵩ミ節減之御趣意ニ悖リ却而奉恐入候殊ニ事務多端之折柄ニ付何分勤続難相成候間兼而番組御改正相成候ニ付而者公用村用一切ニ関係之書類同会所江更ニ可相備置段事務取扱大略を以御布達被為在候ニ付速ニ書証類引渡シ私共義者是迄ニ而辞役仕候間何卒右願之趣御聞届被成下置度此段奉願上候也

第三区七番組

太尾村

元戸長　磯部与右衛門

同副戸長　森半兵衛(印)

同　漆原定八

樽村

元戸長　横溝与左衛門(印)

同副戸長　鈴木忠兵衛

同　横溝重蔵

同　同　勘兵衛(印)

北綱島村

元戸長　飯田光実(印)

同副戸長　小泉武左衛門(印)

神奈川県権令　大江　卓殿

(飯田助丸氏蔵)

三四　村用掛選挙に関する指令願上書

村用掛撰挙書

第拾壱区拾番組

武蔵国多摩郡

高木村

尾崎金左衛門

芋久保村(ママ)

石井権左衛門

蔵敷村

鈴木重蔵

右撰定仕候間速御指令被成下度奉願上候已上

©神奈川県立公文書館

明治七年三月四日

右

副戸長　宮鍋庄兵衛

戸長　内野杢左衛門（印）

区長　石坂昌孝

神奈川県令　中嶋信行殿

（「区画改正筆誌」（明治六―七年）内野悌二氏蔵）

三五　村用掛拝命誓約書提出に関する件達

第拾壱区

武州多摩郡

野中新田与右衛門組　秋山権兵衛

大沼田新田　中村七郎左衛門

鈴木新田　深谷運平

下小金井村　鴨下庄左衛門

下小金井新田　鴨下文左衛門

貫井村　平井六右衛門

牟礼村　高橋董三郎

下連雀村　渡辺源二郎

上連雀村　石井安五郎

北野村　野原七蔵

上仙川村　井上吉之丞

関野新田　大塚平兵衛

梶野新田　梶野直次

（ママ）西久保村　井野宇左衛門

田無村　小山平左衛門

清戸下宿　小嶋宇右衛門（孫）小島義助

中清戸村　村山源蔵

下清戸村　大熊友次郎

小川村　佐藤金左衛門

小川新田　並木源左衛門

（木脱）榎戸新田　清水藤五郎

高木村　尾崎金左衛門

蔵敷村　鈴木重蔵

（ママ）芋久保村　石井権左衛門

前記各名へ今般村用懸被仰付候間此旨及御達候就而者請書之趣

©神奈川県立公文書館

正副戸長加印区会所江取纏早々　御庁江御差出し可被成候也

在港

区長　石坂昌孝

七年三月卅一日

第拾壱区

自壱番組
至拾番組

正副戸長御中

別紙御辞令相成候間篤ト御承諾之上速ニ御請書御差出し可被成候此状御披見次第御急達周尾より御戻達可被成候也

第拾壱区
会処

（「区画改正筆誌」（明治六―七年）内野悌二氏蔵）

二六　村用掛選定改正に関する件達

庶第五十号

自第二大区
至第二十大区
区戸長副
代議人ヱ

各区村用懸之儀ハ従前区戸長之撰定ニ任セ採用致シ来候処方今民情兎角物議ヲ生シ動モスレハ出訴シ夫カ為メ冗費相嵩ミ往々迷惑及ヒ候者不尠趣ニ相聞右ハ畢竟撰挙之規則無之ヨリ自然右様ノ宿弊今日以テ相存シ候義ニ付自今村用懸任撰之義モ総テ戸長副ニ準シ代議人等一同之入札ヲ以採用候条其旨相心得平素民心ヲ熟知シ任撰之義不都合無之様注意可致此旨相達候事

明治七年十月九日　　神奈川県令　中嶋信行

（神奈川県布達）

二七　人民身分順序に関する件達

（朱書）『第八十三号』

各区区長
戸長

人民順次之義是迄心得方区々之趣ニ有之候処先般公布之趣も有之候ニ付以来区長戸長士族平民ト可相心得事

右之趣区内無漏可相達候也

明治七年三月二七日　　神奈川県令　中嶋信行

（「区画改正筆誌」（明治六―七年）内野悌二氏蔵）

©神奈川県立公文書館

二八　区長事務章程および同追加（一―二）

(一)

区長事務章程

第一章

区長ノ職タルヤ官民ノ間ニ立上意下達下情上通セシムルヲ要シ事ヲ理スルノ任ニシテ即官民ノ媒酌人ト云フヘキ也然ルニ現今ニ在テハ徒ニ其郷閭ニ在テ事務ヲ執リ適月次ノ出庁会同アリト雖モ官民ノ間疎遠ニシテ上下隔絶ノ弊ナキ能ス故ニ今般毎区正副長ノ内交替一名ツヽ県庁ニ出仕シ官民ノ内ニ従事シ以テ上下情意ヲ融通セシメ敢テ擁閉ノ弊ナカラシメンヲ要ス

第二章

各正副区長ハ県庁ニ出席シ政令憲法及一切県治上ノ章程ヲ通暁シ実際施行ノ事務ニ就キ其可否得失ヲ弁論セシメ以テ県治ノ補助トセンヲ要ス

第三章

故ニ其引受ノ区内諸般ノ廻議書視閲加印ノ権ヲ有ス因テ意見アルモノ之ヲ奉者ニ相議シ論議分ルモノハ別ニ議案ヲ付シ長官ノ決判ヲ請クヘシ

第四章

県庁江出中ハ其区内ノ事務ニ関シ先規定例アルモノハ各自奉者ト成リ速ニ事務ヲ所分シ人民ノ便宜ヲ得セシメンコトヲ要ス

第五章

県庁詰交替期限ハ三ケ月ヲ定則トス故ニ庁ニ在テハ当時政躰ノ主意ヲ通解シテ理事ヲ明ニシ郷閭ニ頼テ之ヲ模範シ人民制論教導其宜ヲ得以テ上下ノ情意間然ナカラシメントス

但郷閭ニ在テノ事務ハ従前ノ通タルヘシ

右之通相定候事

明治七年
第三月

神奈川県令　中嶋信行

（「区長必携」飯田助丸氏蔵）

(二)

庶第七十九号

第二大区ヨリ第二十大区ニ至

正副区戸長

今般区長事務章程左ノ通追加候条其旨相心得出納牒簿等来ル八年一月ヨリ別紙雛形ニ照準シ聊不分明ノ儀無之様屹度注意可致尤旧来ノ勘定都テ詰算不相成因循打過候向モ有之哉ニ相聞ヘ甚以不相済事ニ

©神奈川県立公文書館

候就テハ本年十二月ヲ限リ悉皆勘定ヲ遂ケ可申追テ官員派出調査為致候条其節不都合ノ儀無之様兼テ可相心得此旨相達候事

但小区会所ニ於テモ悉皆同様ノ義ト可相心得事

明治七年十一月二十日

神奈川県令　中嶋信行

区長事務章程追加

一　会計ノ精審ナラサルハ人民疑惑ノ念ヲ生スルノ基ニテ之カ為ニ多少ノ不都合ニ至ルノ件往々止ス仍テ区長以下一層厚ク注意シ正租公納ヲ始メ戸口旧高等ヨリ賦課スル一切ノ出入ヲ明瞭ニ計算シ後規ト為ス可キ牒簿ヲ備ルヲ専要トス

一　正租雑税布達日限ノ通可公納ハ勿論ニ候処本人ノ都合ニ依リ事実期限ヲ過ル時ハ情実ヲ審問シ有体ニ具状ス可シ

一　区会所ニ於テ立替繰替金等ハ計算錯雑ノ基ニ付禁止ス可シ（正租米金ヲ雑税ノ廉ヘ相納正租雑税米金ヲ区入費ニ立替区入費ヲ正租雑税ノ廉ヘ上納スルノ類）万一事ノ都合ニ依リ立替スシテ叶サル時ハ更ニ区入費ハ代議人ヲシテ合議セシメ金主ヲ立テ利金ヲ定メ区戸長並ニ代議人ヲシテ借用証書ノ借主タラシムヘシ

租税米金ハ其不納ノ者承諾ノ上金主利金ヲ定メ其不納ノ者ヲシテ借用証書ノ借主タラシムヘシ

一　凡ソ金穀ヲ出納スルノ順序ハ須ク先ツ簿書ノ体裁ヲ精覈ニシ日々ノ入出ヲ遺漏錯雑ナキ様明瞭詳記スヘシ簿書精整ナレハ独調査考検ノ労費ヲ省クノミナラス亦矛盾差謬ノ弊ナキニ至ラン依テ茲ニ会所ニ設クル簿冊ノ体裁ヲ約略左ニ掲ク

一　日計簿　一冊

此簿冊ハ本仮納払ハ勿論毎日出納スル一切ノ金銭ハ無漏洩員数及ヒ受入払出ノ旨趣人名等ヲ式ノ如ク詳記シ納払共ニ廉々主務ノ者及ヒ正副区戸長必ス検印シ日毎ニ其受払ノ合計ヲ掲載スヘシ

一　貢金会計元簿　一冊

一　区費金会計元簿　一冊

此簿冊ハ各種時々ノ受納及ヒ払出高トヲ日計簿ヨリ転記シ而后精密ニ算勘シテ請払会計差謬ナキヲ要シ主務ノ者及ヒ正副区戸長式ノ如ク之ニ検印シテ以テ勘定ノ基礎トスヘシ

右之外尚ホ計算上便利ノ為メ各種ノ簿冊ヲ製スル等ハ其区ノ便宜ニ従フト雖モ成丈ケ繁雑ナラサル様注意スヘシ

（神奈川県布達）

©神奈川県立公文書館

二九　正副区長戸長身分取扱に関する件達

正副区長戸長江

其方共身分之義自今区長者十二等副区長者十三等戸長ハ等外壱等副戸長ハ等外弐等総而県官ニ準シ候義と可相心得且月給之義第三区々長ハ拾五円副区長ハ拾三円ニ金額引直シ其他者従前之通可相心得此段相達候事

明治七年五月二日　　神奈川県令　中嶋信行

（「区画改正筆誌」（明治六―七年）内野悌二氏蔵）

三〇　区番組呼称変更に関する件達

各区正副区戸長江

先般区画改正之際詮議之次第も有之何区何番組ト唱来候処右者本月十四日限廃止自今是迄之第壱区より順序ニ第幾大区幾小区ト改称候条其旨可相心得候

右之趣小前末々ニ至迄無漏可触示此段相達候事

明七（ママ）六月二日　　神奈川県令　中嶋信行

前書之通御改称被　仰出候ニ付而ハ更ニ大小区印及ヒ表札其他総而相改メ不都合無之様御取斗有之度候也

庁詰

区長

明治七年六月二日

（「区画改正筆誌」（明治六―七年）内野悌二氏蔵）

三一　民費節減に関する心得

民費ノ事

第一条

民間今日ノ景状ヲ察スルニ旧弊未タ去ラス而シテ新事漸ク興ル其多費ニ渉ル今堪ヘ可カラサラントス故ニ先ツ慣習ノ冗費ヲ删除節減スヘシ

第二条

婚儀ハ人倫大礼タリト雖モ今日ノ弊徒ニ虚飾ヲ重ンシ許多ノ財産ヲ糜費スルニ至ル因テ之ヲ節制スル左ノ如シ

第一節

立会ハ親族両隣組合ヲ限ル可シ若シ富有者ニテ奔走ノ人ヲ欠時ハ該家主了見ニテ数人ヲ頼ミ或ハ賃金ヲ出シ雇フハ妨ケナシト雖モ自他ノ例ト為ス可カラス

©神奈川県立公文書館

（欄外注記）已ニ節制セントス

第二節

礼服ハ欠ク可カラスト雖モ男女婚儀ノ式ニ止リ外人江応接ノ際ニ於テハ常服ヲ用フヘシ例ヒ富有者ト雖モ常日服用セサル衣類ヲ裁製ス可カラス

第三節

継目ト唱ヘ新婦一村中毎戸ニ就テ相見スルノ礼ヲ節シ親族近隣村吏ノ宅ニ趨礼スルモノトス

第四節

貧富ヲ論セス入酒ト唱フルモノヲ廃シ又相識ルノ人祝儀ヲ述フルハ人情ノ交誼ニ付事ノ終ル後ニ至リ来慶スルハ善ト雖モ婚礼ノ後家主平生交ル処ノ友人ヲ招請シ更ニ祝宴ヲ設ケ情誼ヲ厚フスルハ格別ナリ

第三条

喪ハ又礼ノ大ナルモノニシテ人子ノ尽サヽル可カラサルモノ也然ルニソノ弊ヤ今新喪ニ逢フモノアル時ハ近隣斉シク雑集シ該家現時ノ資産ヲ計ラス旧礼ヲ比例シ且吊喪ノ人員ヲ臆算シ供膳良否ニ苦配ス焉ソ哀ヲ尽スノ遑アランヤ故ニ左ノ如シ

第一節

新喪ノ節立会フモノハ第二条第一節ノ如シ

第二節

棺槨衣食ノ美ヲ尽スハ所謂親ニ倹セサルモノニシテ今日ノ事其分ニ過クルト言ヒ難シ恃リ葬喪ノ路次ニ在テ多少ノ銭貨ヲ散布シ衆人ヲシテ之ヲ拾取セシムルハ最モ悪弊ト言フヘシ速ニ除去スヘシ

第三節

出喪ノ際ニ臨ミ吊者随葬スルハ然ルヘシト雖トモ葬後ニ際シ吊喪ノ客ヲ敬接送迎シ膳ニ就カシムルヲ止ムヘシ且平生ノ交情ニ因リ赴吊スヘキ者ハ三五日ヲ経テ来訪ス可シ

第四条

右ニ述フル如キハ一家ノ経済ニ止リ民費課出ノ事ニ関セスト雖モ各自冗費ヲ省キ而シテ一般有益ノ公費ヲ支出スルノ力ヲ保スルニ至ル而シテ課出ノ法タル周密ニシテ明瞭ニ整理スヘシト雖モ周密ニ過クルトキハ費ヲ生スルノ患アリ故ニ簡明ノ法ヲ設ケ之ヲ一定スヘシ左ニ

第一節

小区及ヒ毎村ノ経費ハ三ケ月ツヽヲ合セ明細表ヲ製シ且実際取立ル処ノ牒簿江検印ヲ請フヘシ

©神奈川県立公文書館

（欄外注記）本議ニ決ス

第二節

一月ヨリ三月マテ四月ヨリ六月マテ七月ヨリ九月マテ十月ヨリ十二月マテト四度ニ小区シテ取立ツヘシ且期合ニヨリ或ハ二ケ月乃至四ケ月ニ合シ取立ルコトアルモ必ス六月ト十二月トノ計算ハ伸縮ス可カラス

第三節

課出ハ内割ヲ用ヒス必ス右ノ決算ニ依拠スヘシ但シ其間立替金ノ利子ヲ付スハ至当ナリト雖トモ該職員ノ月給ハ利息ヲ加ヘサルモノトス

第四節

経費表ハ一目瞭然ヲ要スルモノニ付小区表ノ如キモ成丈ケ他ノ名儀ニヨリ別途ニ賦課セス大区費警察費ノ割請ケヲモ捻テ算入シ重複ノ手数ヲ省クヘシ

第五節

小区ノ経費表ハ大区扱所ニテ検印シ各村ノ経費表ハ戸長ニテ検印スヘク尤モ表ハ大区ニ出スモノトス

（欄外注記）多数ニ付本議ヲ取消シ左ニ決ス

小区江算入セス直ニ各村ノ経費表目江加フルモノトス

第六節

村費取立ノ節ハ表并ニ取立原簿ニ記スル所ヲ以テ旧高壱石ニ付金何程反別壱反何程ト大書シ戸長役場印ヲ押シ之ヲ村吏ノ役場ニ張出シ一般ニ明示スヘシ

第七節

数村ヲ里長一名ニテ統轄シ各村ノ慣習ニヨリ経費ノ一般ニ賦シ難キモノ或ハ特ニ戸口ニ関シ又ハ旧高ノミニ課スルノ類ハ表末ニ其目ヲ掲ケ割合法ヲ記ス可シ若シ目ノ数個ニ渉ルハ付録表ヲ製スヘシ

（「中川家文書」　大磯町教育委員会蔵）

（注）この資料は年不詳。

三　足柄県第三大区事務所設立にともなう新吏員定数および職制に関する件達

先般城多権参事派出及諮議候趣ヲ猶酌量之上其区内荻野山中江大区事務扱所設立従五月十日事務為取扱候条五月七日限リ従来ノ副区長正副戸長トモ悉皆相廃止更ニ左ノ通吏員ヲ設ケ別冊職制概則ニ依準シ事務無渋滞取扱可申事

一　大区　　区長　　一員

©神奈川県立公文書館

副区長　二員
議員　二員
書記　（欠字）
一　小区　戸長　一員
副戸長　二員
議員　（欠字）
書記　（欠字）
一　各村町駅
里長　一員
立会人　適宜
議員　（欠字）

（別冊）

一　正副区戸長トモニ区内一般ノ人民公選ヲ以薦挙可致当然ニ候得共改正着手之際ニ付当分ノ内官ノ特選ヲ以可申付事
但シ人員ノ儀ハ土地人民ノ景況ニヨリ減員ハ不苦事
一　里長立会人ハ各村町駅一般人民公選ヲ以テ人名取極可申立事
但シ一般人民ノ公選ニ係ル者ト雖モ官ヨリ其性行才能ヲ探偵致シ不都合ノ見込有之節ハ改選可申付事
一　正副区長戸長ノ給料ハ准官等ニ比擬シ適宜酌量ノ上支給可致保長以下ノ給俸日当等協議ノ上至当ノ給額ヲ定メ更ニ可申立事
一　正副区長里長ノ在職ハ四ケ年ヲ以一期ト相定其時々改選可致事
一　昨七年中相達候議事概則ハ時宜ヲ斟酌シ更正ノ上追而可相達事
右之通相達候也

明治八年　月　日　　足柄県令　柏木忠俊　印

（「明治八年亥二月諸控簿」大矢ゑひ氏蔵）

三　里長等人選に関する約条書

約　条　書

今般里長立合人各村町駅一般人民取極可申立旨御沙汰ニ付約条取極候所左之通リ

一　各村町駅人撰之義ハ私偏ヲ以セス更ニ公撰ヲ以入札可致事
一　入札高札ニ相当リ候者役請之義私情ヲ以異義申間敷候且亦一同之者ニ於も私偏ニ泥ミ不伏等申間敷候雖然仮令高札ニ相成候共官より改選被　仰付候節ハ無違背更ニ改選可致事
一　総而勤役中之義ハ四ケ年ヲ一期トシテ御規則之通リ改正可致事
一　今後入札有之と雖も右約条ヲ採用いたし違約致間敷候事
右確約箇条書之通リ一村商議之上取極候条聊相違無之ため連署致候所為後日如件

©神奈川県立公文書館

明治八年五月十日

第三大区一小区

相模国愛甲郡上古沢村

永島武八（印）　青木文次郎（印）　外山辰五郎（印）　守屋庄作（印）
永島滝次郎（印）　青木長太郎（印）　外山甚吉（印）　守屋庄平（印）
永島金次郎（印）　小川六平（印）　外山倉次郎（印）　永島彦太郎（印）
永島三郎（印）　水島和吉（印）　守屋常次郎（印）　関戸弥市（印）
永島仁平（印）　水島平吉（印）　守屋久八（印）　関戸広吉（印）
永島周吉（印）　水島喜八（印）　井上清吉（印）　関戸捨五郎（印）
永島徳平（印）　小川清七（印）　井上七郎（印）　永島岩八（印）
永島ひで（印）　松村真梁（印）　井上六太郎（印）　関戸万吉（印）
水島春太郎（印）　小川清吉（印）　井上佐太郎（印）　外山又平（印）
水島豊吉（印）　小川吉五郎（印）　守屋喜代三（印）　永島七郎平（印）
水島金八（印）　鈴木捨三（印）　井上角太郎（印）　渡辺市太郎（印）
水島百次郎（印）　渡辺孫作（印）　井上弥八（印）　永島仙三（印）
水島仙太郎（印）　永島惣次郎（印）　井上甚三（印）　堀江今三（印）
石原重吉（印）　外山竜吉（印）　守屋惣吉（印）　井上伝吉（印）
石原太郎吉（印）　外山茂吉（印）　守屋喜三郎（印）　永島丑五郎（印）
石原茂七（印）　外山源次郎（印）　出口勝五郎（印）　永島藤吉（印）
出口市郎（印）　永島熊次郎（印）
関戸重八（印）　毛木紋十郎（印）
守屋春吉（印）　毛木長八（印）

©神奈川県立公文書館

毛木忠七（印）　森久保次平（印）
神崎彦次郎（印）　森久保三平（印）
久保田新太郎（印）　霜島善九郎（印）
久保田弥七（印）　杉山市内（印）
久保田由五郎（印）　榎本ちか（印）
霜島嘉吉（印）　久保田市五郎（印）
霜島兵八（印）　石井幸三（印）
森久保国松（印）　石井小四郎（印）

里長
立合人
議員
御中

（「村役人改正ニ付約条書控」（明治八年）柏木喜重郎氏蔵）

（注）大矢ゑひ氏所蔵資料に同様のものがある。

三四　村吏改正に関する問合書

村吏改正ニ付御問合書

大区

副区長

一　大区ノ戸数又ハ人口ノ多寡ニヨリ凡定員有之候哉

一　月給定額有之候哉

但全町村駅ヨリ県庁へ取立本人江相渡候義ニ候哉

一　辞令ハ支庁ヨリ相渡可然哉

但案文別紙ニ及御問合候

小区

戸長

一　一小区一名ニ而可然哉

一　月給定額有之候哉

但其区内ヨリ県庁江取立本人江相渡候義ニ候哉

一　辞令ハ副区長同様支庁ニ而可相渡哉

副戸長

一　区内ノ戸数又ハ人口ノ多寡ニヨリ凡定員有之候哉

一　月給定額有之候哉

但前同断

一　辞令ハ前同様ニ而可然哉

各村町駅

里長

©神奈川県立公文書館

一　村駅戸数人口ノ多寡ニ不拘一名ニ而可然哉
一　辞令不相渡撰挙状江承付ニ而可然哉
一　月給ハ村駅ノ適宜ニ任セ可然哉

立会人

一　村駅ノ戸数又ハ人口ノ多寡ニヨリ適宜ニ而可然哉
一　辞令不相渡里長同様ニ而可然哉
一　月給ハ里長同様村駅ノ適宜ニ而可然哉

小前惣代

一　従前之通ニ心得可然哉

右之通及御問合候乍御手数詳細御答有之度且副区長改正大区扱所ヲも□設候ニ付而ハ従前之区割ニ而者天城山差跨人民不便利とも可有之ニ付左之通割替可申哉尤割替候得ハ村数戸数人口等大ニ多寡ヲ生シ候間一大区相増候方ニも可有之哉及御相談候也

八年

五月廿日　　韮山出張所（印）

本　県

（別紙）

第何大区副区長申付候事

何之誰

明治八年　月　日

足柄県

韮山出張所

第何大区何小区戸長副戸長申付候事

何之誰

明治八年　月　日

足柄県

韮山出張所

第四大区　（朱書）『君津国分郡』

十小区

第五大区之内（朱書）『賀茂郡』

小一区（朱書）『熱海組』

小二区（朱書）『伊東組』

小三区（朱書）『大沢組』

小四区（朱書）『稲取組』

（朱書）『右四大区〈組替』

〆十四小区

©神奈川県立公文書館

百八拾四ケ村
十九ケ町
合　戸数壱万五千八百四拾九軒
　人口八万百九十壱人

（宋書）
第五大区『賀茂郡那賀』
小五区
小六区
小七区
小八区
小九区
小十区
小十一区
〆七小区
九十八ケ村
十八ケ町
合　戸数壱万四百五拾八軒
　人口四万九千二百三十六人

（柏木俊孝氏蔵）

三五　副戸長後任人選に関する約定書

約定書

一　今般当区内副戸長宮代謙吉殿依願免職被　仰付候ニ付而者後職之者人民一般公撰投票之上取纏メ大区江可差出旨御達ニ付私偏ニ不泥公平ヲ旨として取斗可申落票之者私情ヲ以異議申立候儀決而不仕候
　但時宜ニより官より改選被　仰出候上者更ニ改選候事

一　区内村町ニ寄人員之定額素ヨリ其異不少甲丁者多人数乙村ハ少人数ニ而自然投票之公平ヲ失し候哉も難斗ニ付町村毎廿五名ヲ以テ代理とし区内拾ケ村丁ニ而弐百五十名之者投票ヲ致尤右之者取斗之上ハ一同更ニ異論無之事

右投票ニ付書面之通約定候上者聊違約不仕候因而一同連署致候処如件

農連印

（「御用留」（明治八年）曽根田重和氏蔵）

三六　大小区書役身分取扱に関する件達

第二百八十八号

各大区

©神奈川県立公文書館

正副区戸長

各大区書記并各小区書役身分取扱方之儀自今書記ハ副戸長ノ次席駅町村掛ノ首座書役ハ駅町村用掛次席ト相定候条此旨相達候事

明治九年十一月四日　　神奈川県権令　野村　靖

（神奈川県布達）

三七　大区書記改称に関する件達

乙第廿四号

各大区

正副区戸長

自今各大区書記ヲ筆生ト改称候条此旨相達候事

但小区書役之儀ハ従前之通

明治十年一月廿三日　　神奈川県権令　野村　靖

（神奈川県布達）

三八　正副戸長等選挙の開票に関する件達

乙第四十二号

各大区

正副区戸長

正副戸長并村用掛撰挙投票之儀是迄当庁第一課ニテ開札致来候処向後正副戸長撰挙投票者該区務所ニテ村用掛撰挙投票者該小区扱所ニテ投票人為立会開札シ其数之順席ヲ記シ投票相添第一課江可差出此旨相達候事

但差出方順□之儀ハ従前之通可相心得事

明治十年二月一日　　神奈川県権令　野村　靖

（神奈川県布達）

三九　大区小区制改革等に関する浮説訂正の件達

乙第七十二号

各大区

正副区戸長

区画改正ノ儀ハ其当ヲ得サレハ政治上多少ノ弊害ヲ生シ区民ノ疾苦日ヲ追テ長スル儀ニ付容易ニ其改正等ノ儀難相成候処訛伝何レヨリ相発候哉右改正不日有之抔ト相唱フル者有之為之区戸長等ノ内自己ノ進退ヲノミ未発ニ慮リ肝要ノ事務他日ニ譲ル等ノ儀ハ決シテ無之筈ニ候得共万一右等心得ノ者有之候テハ不相成儀ニ付徒ニ訛伝ニ泥マズ勉励其職ヲ尽シ区民ノ迷惑等無之様可致此旨相達候事

明治十年三月一日　　神奈川県権令　野村　靖

（神奈川県布達）

©神奈川県立公文書館

四〇　区長等再選見合に関する件達

丙第七十号

自第弐至第廿大区
正副区戸長

区画改正之大略第七条ニ区長以下勤役之儀ハ四ケ年ヲ限リトス云々ト有之已ニ満四ケ年ニ相成候者ハ再人撰可致之処詮議之次第有之追テ何分之義相達候迄従前之通勤続可致儀ト可心得此旨相達候事

明治十年三月十三日　神奈川県権令　野村　靖

（神奈川県布達）

四一　布告等の下達迅速を期する件達

丙第百六十五号

自第二至第廿大区
正副区戸長

布告布達ハ官民肝要之儀ニ付発令相成候ハヽ直ニ区民末々ヘ周知可為致筈ニ候処兎角速ニ不行渉哉ニ相聞甚不都合ニ候条兼テ昨明治九年七月中区長ヨリ上申之通急度履行可致此旨相達候事

明治十年五月廿四日　神奈川県権令　野村　靖

（神奈川県布達）

四二　区務受渡規則

乙第二十四号

各大区
正副区戸長

自今区戸長更替ノ節区務受渡規則別紙ノ通相定候尤町駅村吏更替ノ節モ該規則ニ拠リ事務受渡該区戸長ヘ届出候様可致此旨相達候事

但正区戸長ハ其儘ニテ副区戸長ノミ更替ノ節ハ該規則ノ限リニアラスト雖トモ平常担当ノ事務ハ勿論総テ公文書類ハ無遺漏引渡他日不都合無之様注意可致事

（別紙）

区戸長事務受渡規則

第一条

一　各区戸長更替ノ節ハ辞令拝受ノ日ヨリ二十日以内ニ其区仕来ノ事務ニ関スル一切ノ事件明細廉書ヲ以テ申継クヘシ尤在職中着手事項或ハ将来起興ノ見込有之事項等其手続ヲ経ルノ際未タ上申ニ及ハサルモノハ総テ所見ヲ詳記シ後役ノ者ヘ引渡スヘシ

第二条

一　区務所并扱所ニ属スル簿冊図書等一切ノ公文書及備用器具ニ至

©神奈川県立公文書館

ル迄無洩後役ノ者ニ引渡シ互ニ授受ノ証書ヲ交付シ他日ノ証憑ニ備フヘシ

第三条

一　国税県税及ヒ民費等人民ヨリ取立仕払高共夫々簿冊相添可引渡尤現在残金ノ数ハ受払日計簿ヘ引合セ授受詳審ナルヲ要ス但証書交付ノ手続ハ第二条ニ同シ

第四条

一　受渡相済次第先役并後役ノ者連署ノ上其受渡シタル簿冊図書金穀等左ノ雛形ニ倣ヒ錯雑遺漏ナキ様其目録ヲ詳記シ県庁ヘ届出ヘシ

但戸長ハ該雛形ニ拠リ区長ヘ届出ヘシ

区務受渡御届

簿冊ノ部

一　貢租取立簿　何冊
一　民費日計并元簿　何冊
一　同割付取立簿　何冊
一　戸籍簿　何冊
一　徴兵并国民軍成丁免役届簿　何冊
一　社倉金明細簿　何冊
一　何々簿　何冊

以下漸次其目ヲ記スヘシ余ハ倣之

計　何拾冊

布告布達ノ部

一　官省布告布達類　何冊

但何年ヨリ何年何月迄

一　本県布達并達類　何冊

但書前ニ同シ

計　何冊

図書ノ部

一　区内全図　壱帖
一　何々　何冊
一　何々　何冊
計　何帖何冊

雑書ノ部

一　何々書類綴込　何冊
一　何々書類　何袋
計　何冊何袋

©神奈川県立公文書館

金穀ノ部

一　金　若　干

但何年第何期貢租ノ内何ノ誰外幾人納ノ分別紙明細書添

一　金　若　干

但何年何月分何々税或ハ何々県税ノ内何ノ誰外幾人納ノ分別紙明細書添

一　金　若　干

但何年何月ヨリ何月迄民費取立金ノ内仕払残現有高

計　金　若　干

右ノ通簿冊金穀等受渡仕候間連署ヲ以此段御届申候也

旧区長　何ノ誰印

第何大区々長　何ノ誰印

年　月　日

神奈川県令　某殿

（神奈川県布達）

四三　官令制規等審議禁止に関する件達

甲第四十六号

大小区会及県会於テ官令制規等ノ是非ヲ議シ得ヘカラサルハ勿論ノ事ニ候得共為心得此旨布達候事

明治十一年三月廿二日　神奈川県権令　野村　靖

（神奈川県布達）

四四　民費賦課法議案および貯金法議案に関する件達（一―四）

(一)

乙第三十六号

各大区　正副区戸長

今般民費賦課及貯金方法トモ別紙議案之通県会於テ議定可致ニ付来月五日ノ定日ヲ同月二十日迄ニ延シ同日ヨリ五日間開場候条其前先以戸長村吏代議人等篤ト商議ノ上当日出頭可致此旨相達候事

明治十年一月三十一日　神奈川県権令　野村　靖

（別紙）

民費賦課法議案

去ル明治八年中臨時県会ヲ開キ衆議一決シテ民費賦課法ヲ改正シ同年十二月第二百六十号ヲ以テ之ヲ一般ニ布達セリ此時ニ際シ地税改

©神奈川県立公文書館

正其他百端事務鞅掌ニシテ猶未之ヲ実施スル不能荏苒以テ今日ニ至レリ然ルニ本年一月太政官第二号ヲ以テ民費ノ額ヲ節減シ更ニ正租ノ五分一ト定ラレタリ付テハ第一ニ費額省略ノ方法ヲ調査セント欲スレトモ一般区画改正等ノ見込アレハ今日直ニ之ヲ議スルヲ不得因テ先ツ試ニ明治八年ノ正租ニ拠リ其費額ヲ計算スルニ地価ニ課セントスル五分一ノ制限ハ十五万五千九十円余ナリ而シテ同年支消セシ物額ハ五十六万六千三百三十余円ナリ内地租改正費及川々国役金ノ如キ将来賦課スヘカラサルモノヲ除去スレハ残額三十五万千八十余円トス之ヲ制限ノ費額ニ比スレハ十九万五千九百九十余円不足ヲ生ス依テ此不足ハ尚他ニ賦課セサルヲ不得然レトモ元来五分一ノ制限ヲ単ニ地価ノミニ賦課スルモノトセハ土地ヲ有スルモノニ非レハ又課スルヲ不得然レハ賦課ノ一点ニ於テハ土地ヲ有スルト有セサルトニヨリテ人民ニ負担セシムルノ軽重ヲ現出ス故ニ其物額ヲ地価ニ三分五厘戸数ニ六分五厘ト目安ヲ立テ之ヲ賦課スレハ一般公平ヲ得ルモノト云ヘキ歟凡三十五万円ノ物額ト制限ノ金額十五万円ヨト而シテ其戸数ニ就テ賦課スルニ当リテハ其資産ノ厚薄ヲ査覆シテ十二級ヲ分チ以テ収額ノ多寡ヲ定メントス則左ニ其方法ヲ議セント欲ス

但第一大区市街ハ渾テ該案ノ外トス

第一条

一　左ニ記載スル第一項ノ如ク制限ノ全額ヲ地価ニ課シ現ニ不足スル所ノ金額ヲ戸数ニ賦スルハ即今ノ費額ニ於テハ割合法稍其宜キヲ得ルニ似タリト雖トモ漸次民費減少シテ制限ノ額ニ至ルトキハ単ニ地価ノミニ課スルハ不公平ト云フ可シ故ニ緒言ニ陳述セシ如ク地価及戸数ニ分賦セントシ予メ之ガ割合ヲ定メテ第二項ノ如ク一般ニ地価ニ課スルハ費額十分ノ三分五厘ヲ極度トシ其余ハ戸数ニ課セントス

第一項

一金三十七万七千八十三円四十一銭三毛　民費物額

但明治八年ノ費額ヘ学費ノ増額二万六千円ヲ加ヘテ算ス

外金二十一万五千二百四十九円三十一銭一厘六毛　本文ノ内ヲ除ク

内

金二十万四千九百四十三円七十三銭九厘六毛　地租改正費

金一万三百五円五十七銭二厘　国役金　制限ノ費額地価ニ課ス

金十五万五千九十円八十六銭五厘

但地租五分ノ一則二割ニ当ル

金七十七万五千四百五十四円三十二銭六厘　八年分地租　制限外ノ費額戸数ニ課ス

金二十二万千九百九十二円五十四銭五厘三毛

©神奈川県立公文書館

現戸数十二万七千百五十五戸

此兼戸数五十万八千六百二十戸

但現一戸ニ付平均三戸ヲ兼ヌルモノト見做ス

一戸ニ付金四十三銭六厘四毛余　則等級十二等ノ一戸ニ賦課スル金額ナリ

第二項

一金三十七万七千八十三円四十一銭三毛　民費惣額

但地租改正等ノ費額ヲ除クコト前ニ同シ

金十三万千九百七十九円十九銭三厘六毛　三分五厘地価ニ課ス

但地租金額ノ一割七分余ニ当ル則制限ヨリ少ナキコト三分弱ナリ

金七十七万五千四百五十四円三十二銭六厘　八年分地租

金二十四万五千百四円二十一銭六厘七毛　六分五厘戸数ニ課ス

現戸数十二万七千百五十五戸

此兼戸数五十万八千六百二十戸

但現一戸ニ付平均三戸ヲ兼ルモノト見做ス

一戸ニ付金四十八銭一厘九毛余　則等級第十二等ノ一戸ニ賦課スル金額ナリ

第二条

一　地価戸数ニ費額ヲ分賦スルハ第一条ノ如シト雖トモ各大区費以下小区費及村費等ニ至リテハ各其地価及民費ノ多寡ニ応シ適宜之カ割合ヲナサヽルヲ不得因テ左ニ其比例ヲ挙ク其甲ナルモノハ地価及費額共制限ノ金額及分賦ノ割合ニ適シタルモノナリ乙ハ之ニ反シ地価ニ比較シテ入費ノ多キモノナレハ歩合ノ極度ヲ以テ分賦スル不能故ニ其割合ノ歩合三分五厘ヲ減シテ二分トナシ余ハ戸数ニ課セントス

甲

地価二百拾六万円

此地租金五万二千五百円

戸数七千二百戸

此兼戸数二万八千八百戸

一金三万円　民費

金一万五百円

但地価千分ノ五則地租五分ノ一ナリ

金一万九千五百円　六分五厘戸数ニ課ス

但兼戸一戸ニ付六拾七銭七厘余

乙

地価金百二十万円

此地租金三万円

戸数八千戸

©神奈川県立公文書館

此兼戸三万二千戸

一金三万円　民費

金六千円　二分地価ニ課ス

但地価千分ノ五則地租五分ノ一ナリ

歩合ノ極度三分五厘ニヨレハ

金一万五百円

内金四千五百円　地租五分ノ一ノ制限ニ越ユルモノニ付戸数ニ課ス

金二万四千円　八分戸数ニ課ス

但兼戸一戸ニ付金七十五銭

歩合六分五厘ニヨレハ

金一万九千五百円

外金四千五百円　地租制限ヲ越ユルモノニ付地価ニ課シカタシ依テ戸数ニ賦ス

第三条

一　第二条中ノ乙ニ反シ地価ニ較算シテ費額ノ少キハ之レヲ制限ノ五分一ニ課スレハ三分五厘ノ極度ヲ越ユルモノニ付其超過スル金額ハ左ノ計算法ヲ以翌年費用予算ノ内ヘ加ヘ右ノ加金ハ其惣額ノ内ヨリ引去リ残額ヲ以テ翌年ノ費額ニ歩合ヲ立テ之ヲ徴収セント欲ス

但三分五厘ノ歩合ニ超過スル金額則翌年ニ越スヘキ金員ハ該区務所ヘ徴収シテ備置クヘキヤ将右ノ割合ハ全ク計算ノ方法トシテ別ニ徴収セサルモノトスヘキヤ

算則

地価金二百六十二万五千円

此地租金六万五千六百二十五円

戸数七千戸

此兼戸二万八千戸

第一年

費額金三万円

一金一万三千百二十五円　地租五分ノ一

内二千六百二十五円

但地価ニ課スヘキモノヽ内歩合ノ極度ヲ越ユルニ付本年ノ費額ニ加ヘス越金トシテ翌年ノ費用ニ加フ

残金一万五百円　三分五厘地価課ス（ニ脱）

一金一万九千五百円　六分五厘戸数ニ課ス

通計金三万円

外金二千六百二十五円　翌年ヘ越ス

第二年

費額金三万円

©神奈川県立公文書館

内金二千六百二十五円　前年ヨリ越ス所ノ金額ヲ除ク
残金二万七千三百七十五円
一金一万三千百二十五円　地租五分ノ一
内金三千五百四十三円七十五銭
但前同断翌年ノ費用ニ加フ
残金九千五百八十一円二十五銭　三分五厘地価ニ課ス
外金二千六百二十五円　前年越金
一金一万七千七百九十三円七十五銭　六分五厘戸数ニ課ス
通計金三万円
外金三千五百四十三円七十五銭　翌年ヘ越ス
第三年
費額金三万円
内金三千五百四十三円七十五銭　前年ヨリ越ス所ノ金額ヲ除ク
残金二万六千四百五十六円二十五銭
一金一万三千百二十五円　地租五分ノ一
内金三千八百六十五円三十一銭二厘
但前同断翌年ノ費用ニ加フ
残金九千二百五十九円六十八銭八厘　三分五厘地価ニ課ス
外金三千五百四十三円七十五銭　前年越金
一金一万七千百九十六円五十六銭二厘　六分五厘戸数ニ課ス
通計金三万円
外金三千八百六十五円三十一銭二厘　翌年ヘ越ス
第四条
一　費額分賦ノ割合ハ第一条ヨリ第三条迄ノ方法ナリト雖トモ小区費以下ノ割合ニ至ル迄該計算ヲ用ルトキハ頗ル煩雑ニ渉ルヲ以テ該法ハ一般ニ賦スヘキ分ト各大区ニ課スヘキ分トノミニ用ヒ而シテ小区以下ニ至リテハ悉皆単ニ戸数ニ賦課スヘキ哉
第五条
一　前条ノ如ク一般ト各大区トニ限リ地価ト戸数ニ賦課スルモノトセハ其分賦ノ算則ヲ更正シ費額ニ応シテ歩合ヲ定メサルヲ不得其費額ハ第十八条科目ヲ議定シ而ル後金員ヲ予算シ以テ算則ヲ定メント欲ス
第六条
一　三分五厘ト六分五厘ノ歩合ハ該年費用ノ惣額ヲ以テ制限ノ額ニ割合ヲ定メシモノナレハ年々費額ノ不同ニヨリ其歩合ハ変更スルモノトス
第七条
一　家産ノ厚薄ヲ調査スルハ実ニ至難ノ要件ナリ故ニ区戸長村吏及

©神奈川県立公文書館

代議人等ニテ親ク実際ヲ考究シテ篤ト商議ヲ尽シ衆評ノ可トスル所ヲ以テ左表ノ等級ニ応シ之ヲ査定シテ県庁ニ具状セシメントス

但等級表ハ甲乙丙丁ノ四葉ヲ制シ甲表ハ一町駅村ヲ限リ乙表ハ一小区ノ集計ヲ掲ケ丙表ハ一大区ノ通計ヲ挙ケ丁表ハ全管下ノ総計ヲ挙ケントス尤組合村々モ亦該表ニ準シテ調制セシメント（ス脱）

第八条

一　戸数ニ賦課スル計算法ハ等級第十二等ニ当ルモノ一戸ニ一個〔現戸数ノ総数ヘ十一等以上戸数ヲ兼ルノ数ヲ加ヘ以テ民費ノ総額ヲ除シ其ノ得ル所ロノ金額ヲ一個トス〕ヲ課スルモノトシ第十一等以上一等毎ニ一個ヲ累加シテ第一等ハ十二個〔現一戸ニテ十一戸ヲ兼ルモノニシテ則十二倍ナリ〕ヲ賦課セシメントス

第九条

一　一村ヲ限リ等級ヲ定ムルモノハ則一村内ノ等級ナレハ之ヲ他村ニ通シテ用ユルトキハ不公平生ス又一小区ニ限リ定ムルモノモ亦之レニ同シ故ニ一村ニテ編スル所ノ甲表ヲ以テ一村限リノ入費ヲ賦課スルニ用ヒ右甲表ヲ小区ニ集メ小区ニテ制スル所ノ乙表ヲ以テ小区限リノ入費ヲ賦課スルニ用ヒ乙表ヲ大区ニ纏メテ丙表ヲ制シ大区ノ賦課法ニ用ヒ丙表県庁ニ集メテ以テ丁表ヲ編成シ而シテ之ニ依テ管下一般ニ係ル費額ヲ賦課セントス

但甲表ヲ制スルハ其村ノ村用代議人及正副戸長乙表ハ其小区ノ正副戸長村用掛丙表ハ正副区戸長ノ衆議ヲ以テシ丁表ハ県庁ニ於テ正副区長ヲ会シテ衆議ニ付シ彼此照較編成シテ等級ノ平準ヲ得セシメン欲（ト脱）ス

第十条

一　戸数ニ課スルハ該財産ニ賦課スルモノナレハ仮令借家人又ハ寄留人ト雖トモ一戸ニ居住占ムルモノハ固ヨリ其等級ニ応シテ賦課セントス尤鰥寡孤独及無告廃疾者ハ此例外ニ置カントス

第十一条

一　該年ノ費額ヲ予算シテ一般ニ賦課スヘキモノハ県庁ヘ徴収シテ割渡シ一大区并ニ組合村々ニ渉ル入費ハ大区ヘ一小区ノ費用ハ其小区ヘ一村ニ止ルモノハ其村吏ヘ徴集シテ以テ各費用ニ分付セシメントス

但大区組合村々ハ予算書ヲ県庁ニ出シテ検印ヲ請ヒ又小区ハ大区ニ致シ村吏ハ小区ニ出シテ各其検印ヲ請フモノトス

第十二条

一　毎年一月前三ケ年ノ費額ヲ平均シ該年ノ予算ヲ立テ之ヲ四分シテ一月四月七月十月四次ニ先入シ其限度ニ至リテ過不足ヲ精算シ而シテ尚余贏ヲ生スルトキハ其金ヲ翌年ノ費額ノ中ニ加フ則其余

©神奈川県立公文書館

ル所ノ金員三分五厘ヲ地価ニ賦スル費用ニ加ヘ六分五厘ヲ戸数ニ課スル金額ニ加フ若シ不足ナルトキハ更ニ徴収セントス

但第二条中計算法乙号ノ如キ制限ニ抵触スルヲ以テ分賦ノ割合変セシトハ其賦課ノ歩合ニ拠リ贏余ノ金員ヲ分チテ翌年ノ費用ニ加ヘントス

第十三条

一　一般ニ係ル費額ヲ除クノ外第十二条ノ如ク該年分ヲ四分シテ一月ヨリ三月迄ヲ四月中ニ精算シ逐次三ケ月毎ニ大区ヨリ村里ニ至ル迄ノ各精算帳ヲ制シ以テ県庁ヘ出サシメントス

第十四条

一　家産ノ貧富ハ時々盛衰アルモノナレハ仮令ハ本年ノ二等ハ明年ノ二等ニ非ス故ニ毎年十二月ヲ以テ改正ノ期トシ更ニ調査シテ翌年全一ケ年間ノ費額ヲ賦課スル等級ヲ定メントス

第十五条

一　従来賦課スル所ロノ郷村社祭典及修繕費神官給料其他教院雨乞費ノ如キハ各自信仰ヨリ出ルモノナレハ之ヲ公然賦課スルハ其当ヲ得サルモノトス故ニ自今廃除セントス

第十六条

一　一般ニ賦課スヘキ科目中中学校費以下ノ費目ハ学事緊要ノ急務ニシテ之ヲ民費ニ賦課セルヲ不得且其事タル管内一般同一ノ沢ヲ蒙ルモノナレハ一般人民同一ニ其費用ヲ負担スヘキ義務アルハ固ヨリ論ヲ俟サルナリ然ルニ学事創業属シ民情未タ其域ニ至ラス諸般民費多寡ノ際ニ付暫ク小学扶助委托金ノ内ニテ仕払其残余ヲ以テ一般ヘ配賦セシ処元来委托金ナルモノハ窮民就学ノ資産ナキ者ヲ扶助セントノ優渥　朝旨ニ出ルモノナレハ一般ヘ配賦スルヲ至当セリ因テ自今該費目概算一ケ年凡金二万六千円ヲ管内民費内ヨリ仕払猶県税ノ内ヨリ其幾分カヲ補助シ委托金ハ本旨ニ基キ学齢人口ニ応シ悉皆一般各校ヘ配賦シ其区村ニ於テ篤ト遂協議年々貯置キ以テ学事隆盛ノ基礎ヲ永遠ニ立テシメント欲ス

第十七条

一　暴漲費ヲ除クノ外堤防費ハ河川ノ大小難易ヲ不論管内一般ニ賦課スルモノトナスヘキ哉将来従前ノ等級ニ準シ更ニ幹派支川ヲ分チテ其等級ヲ定メ仮令ハ一等ハ一般ニ賦シ二等以下ハ組合各区村ヲ定メテ課スヘキ歟

但該費ハ民費ノ一部分トシ其割合計算方ハ則民費賦課法ニ準拠セシメントス

第十八条

一　民費ハ一般ニ賦スヘキモノト一大区ニ賦スヘキモノト又組合一

©神奈川県立公文書館

小区一村ニ止マルモノアリ故ニ之ヲ左ニ区別セントス

一般ニ賦スヘキ科目

一　県庁営繕費
一　徴役場及監獄営繕費
一　国道県道営繕費
一　布告書類頒布費
一　管内一般臨時諸費ノ諸費（ママ）
一　国道掃除費
一　巡査給料及警察費
一　復籍人逓送費
一　掲示場建築修繕費
一　難船救助費
一　支庁及出張先官員往復書郵送費
一　徴兵下調費
一　中学校入費
一　中学校吏員教員以下月給旅費
一　師範学校入費
一　師範訓導吏員以下月給旅費
一　学区取締月給旅費
一　巡回訓導月給旅費

大区限賦課スヘキ科目

一　正副区長筆生小使月給
一　正副区長筆生筆墨料
一　区務所借地料并家賃
一　用紙用度品買入費
一　正副区長筆生出庁及区内巡回旅費
一　租税金庁納迄ノ入費
一　脚夫賃
一　区務所営繕費
一　区務所諸器物買入費
一　臨時雇入物書給料
一　大区限取調物入費
一　勧業掛月給

小区限賦スヘキ科目

一　正副戸長書役小使月給

©神奈川県立公文書館